三洋商事株式会社様に対する『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第１回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2024 年 7 月 31 日（水）に実行した東大阪支店取引先 三洋商事株式会社（東京都江戸川区東葛西 代表取締役 河原林 令典）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス(※1)』に対し、１回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

（※1） お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会 社 名　三洋商事株式会社
所 在 地　東京都江戸川区東葛西 3 丁目 17 番 41 号
業　　種　通信機器を中心とした産業廃棄物の処理・リサイクル業

【サステナブルな取組み】

当社は、“地球にありがとうを伝える企業”を経営理念に掲げ、循環型社会の実現に向けて廃棄物ゼロをめざしたリサイクルサービスを展開しています。通信機器やコンピューター類の解体・分別を手作業で行うことで、98%以上のリサイクル（再資源化）を実現し、2008 年には産業廃棄物処理業として初めて「エコ・ファースト企業」に認定されました。2020 年には SDGs、CSR 活動の強化を目的に、新部署「地球環境・未来創造部」を創設。各拠点の再エネ 100%化、環境教育や近隣清掃活動、環境イベントの企画・開催など、環境保全に向けた取組みにも力を入れています。2022 年からは、脱炭素や循環型社会の実現をはじめとした SDGs の達成に向けた社内プロジェクト「Sanyo ありがとうチャレンジ 2030」を全社一丸となって取り組んでいます。

※三洋商事株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第１回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以　上

三洋商事株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

第1回モニタリング報告書

２０２５年7月３１日

いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行

目次

1. 三洋商事株式会社の企業概要 1

2. 目標達成に向けた進捗状況 2

3. 総評 3

１．三洋商事株式会社の企業概要

企業名	三洋商事株式会社
設立	1957年3月
代表者名	代表取締役 河原林 令典
資本金	9,000万円
従業員	243人（2025年4月1日時点）
売上高	86億円（2024年10月期）
事業拠点	東京本社・東京リサイクルセンター（東京都江戸川区東葛西3丁目17番41号） 大阪本社・大阪リサイクルセンター（大阪府東大阪市菱江2丁目4番10号） 奈良リサイクルセンター（奈良県奈良市藺生町432番1号） 仙台リサイクルセンター（宮城県仙台市宮城野区蒲生3丁目8番地の1） 広島リサイクルセンター（広島県呉市郷原町12507番地920） 奈良物流センター　（第一ヤード：奈良県天理市福住町2930） （第二ヤード：奈良県天理市福住町2721） 法隆寺物流センター（奈良県生駒郡斑鳩町幸前一丁目11番38号） 千葉物流センター　（千葉県八千代市米本1910-24）
事業内容	通信機器、交換機、コンピューター類のリサイクル 産業廃棄物の収集運搬及び処理など

2．目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	環境的側面においてPIを拡大、NIを緩和
内容・対応方針	顧客ニーズの発掘と営業エリアの拡大により産業廃棄物受入量を拡大する。
KPI	2030/10期までに産業廃棄物受け入れ量を28,500t/年にする。 （2023/10期:21,814t/年）
KPIの進捗状況	2024年度実績：20,549 t /年 建材系廃棄物の受入量減少（コンガラ、木屑など）、製品寿命の向上や機器の小型化・軽量化などにより、引取物品重量は減少した。 CSR・広報活動を通して、外部への積極的な発信を行い、営業範囲の拡大による受入量の拡大をめざす。

項目	内容
インパクト	環境的側面においてPIを拡大、NIを緩和
内容・対応方針	「手サイクル」（手作業による廃棄物の選別・分別）のノウハウ向上により再資源化率を高めることで燃焼や埋め立てに伴う汚染を減少させる。
KPI	毎年の再資源化率※を99.0%以上（2023/10期:99.49%）にする。
KPIの進捗状況	2024年度実績：99.4% 受入重量減少も有価物の受入量は増加しており、高再資源化率を維持している。

※再資源化率＝再資源化量/産業廃棄物の受入量
再資源化量は、当社が再生業者等に販売または他社に処理委託をした量

項目	内容
インパクト	環境的側面においてPIを拡大、NIを緩和
内容・対応方針	CO2排出抑制・高効率型機材の積極的な導入、収集・運搬ルートの効率化やエコ運転の励行、「手サイクル」徹底による燃やさないリサイクルにより温室効果ガス排出を抑制する。
KPI	2030/10期までにCO2排出量を2023/10期比30%削減する。
KPIの進捗状況	2024年度実績：0.58%増加（2023/10期比） 各拠点再エネ電力の利用や非化石証書の購入により、電力に係るCO2排出量は実質ゼロであるが、運送面において、各拠点での稼働増加により軽油、灯油の使用量が増加したため、CO2排出量が増加。 ドライバー勉強会（年6回）での「エコドライブ講習」の実施に加え、社内掲示板や社内報、当社独自のSDGsプロジェクト「Sanyoありがとうチャレンジ2030」などでの積極的な情報発信を行い、引続き従業員の環境意識向上をめざす。

項目	内容
インパクト	社会的側面においてPI を拡大
内容・対応方針	「就労継続支援A型事業所ワークワーク」と共同で「チャレンジド」社員（障がいを抱えた方）の雇用を推進する。
KPI	2030/10期までにチャレンジドの雇用率3.5%以上とする。
KPIの進捗状況	2024年度実績：2.88% 2012年から障がい者の方たちへの一部サポートを「就労継続支援A型事業所ワークワーク」に引継ぎ。業務委託で当社の業務を行っている。

項目	内容
インパクト	社会的側面においてPI を拡大
内容・対応方針	SDGsの考え方を学ぶ無料講座「SDGsスクール」を地域、学校にて開催し、多様性を認める社会の機運醸成に取り組む。
KPI	対外的環境教育活動として実施する「SDGsスクール」を毎年年間10回以上開催する。（2023/10期：２回）
KPIの進捗状況	2024年度実績：9回 順調に開催回数増加中。引続き、対外的環境教育活動に取り組む。

3. 総評

早期達成見込みの目標もあり、インパクトへの取組みは全体的に活発である。

産業廃棄物の受け入れ量は微減となるも、有価物の受け入れ量は増加しており、再資源化率は高水準を維持している。今後は、当社HPやInstagram・X（旧：Twitter）等によるCSR・広報活動を通して、積極的な情報発信を行い、営業エリアの拡大及び新規顧客の獲得に注力していく方針である。

拠点で使用する電力は、再生可能エネルギー由来のものに切り替えや非化石証書の購入を行い、電力に係るCO2排出量は実質ゼロとなっている。運送面でのカーボンニュートラルへの対策として、低公害車の導入や、ドライバー向け「エコドライブ講習」等を実施し、従業員にエコ運転がより浸透する仕組みが作られており、更なるCO2排出量削減に注力している。

「就労継続支援A型事業所ワークワーク」と共同でチャレンジド社員の雇用を推進しており、高い雇用率を維持している。雇用以外にも「就労継続支援A型事業所ワークワーク」との業務委託で、チャレンジドが当社業務を行っており、チャレンジドの方々の自立のチャンスを広げるための取組みを着実に続けている。

「SDGsスクール」を日本全国の小学校～大学にて9回開催しており、多様性を認める社会の機運醸成に取り組んでいる。

また、「SDGsスクール」だけでなく、他社の新入社員向け研修やSDGs研修にて外部講師として講義（当社の取組み事例の紹介や地球環境問題・社会課題の解決について）を行っている。

環境課題への社内向け対策として、全従業員を対象にSDGsプロジェクトを立ち上げており、定期的な清掃活動の実施や勉強会の実施等を積極的に行っている。

百十四銀行も、温室効果ガス排出削減に資する取組みを支援するためにも温室効果ガス排出量が抑制される高性能機材や車両の導入などの業者紹介を行い、当社の取組みを支援していく。